新座市洪水・土砂災害ハザードマップ

保存版

Map of flood disaster areas and Landslide warning areas in Niiza city

新座市洪水災害、泥石流災害危険地図　나이자시 홍수 재해, 토사 재해 지도

発行：新座市
発行年月：令和8年3月
〒352－8623 埼玉県新座市野火止一丁目1番1号
電話番号：048－477－2502
ホームページ：https://www.city.niiza.lg.jp/site/bousai/r03kouzui-dosyasaigai-hazardmap.html
問合せ先：危機管理室

WEB版はこちら

～自分の安全は自分で守る　自分たちのまちは自分たちで守る～

この地図は、荒川、柳瀬川、黒目川が氾濫し洪水が発生した際の浸水の状況と、土砂災害（特別）警戒区域（がけ崩れにより被害を受けるおそれがある場所）、風水害時における避難場所の位置を示したものです。

河川の氾濫については、想定最大規模の大雨（おおむね 1000 年に 1 度程度の確率で発生すると考えられる大雨）が降った場合を想定したものです。

この地図で自宅の周辺の災害リスクや、避難場所・避難経路を確認し、いざというときに適切な行動がとれるよう備えてください。

●作成のもととした洪水浸水想定区域図等

・荒川水系荒川洪水浸水想定区域図（作成主体：国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所・荒川下流河川事務所
平成 28 年 5 月 30 日指定。荒川流域の 72 時間総雨量 632mm）

・荒川水系新河岸川流域洪水浸水想定区域図・水害リスク情報図（作成主体：埼玉県県土整備部河川砂防課
令和 2 年 5 月 26 日指定。新河岸川流域の 2 日間総雨量 746mm）

（参考）アメダス所沢観測所では、令和元年東日本台風（台風第 1 9 号）接近時に 72 時間で 362.5mm の降水量を記録しています。

【平成30年7月豪雨による水害の状況（岡山県）】

このマップの利用方法

このマップを参考にして、以下の項目を確認してみましょう。

- □ 自宅やよく行く施設、場所、よく通るところの浸水やがけ崩れの可能性
- □ 避難する場所や避難経路
- □ 避難の目安となる情報とととるべき行動
- □ 洪水・土砂災害時の避難方法

新座市では、9 月の第 1 日曜日を「新座市家族防災会議の日」と定めています。
各家庭で、防災への取組みについて話し合い、あわせて、地域の自主防災組織や、防災訓練・避難訓練への積極的な参加を検討してみてください。

1 避難の目安となる情報

雨の強さの目安

降雨状況を確認し、河川の増水などにより洪水が起きる可能性に注意しましょう。

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間に10～20mm未満	1時間に20～30mm未満	1時間に30～50mm未満	1時間に50～80mm未満	1時間に80mm以上
ザーザーと降る雨	どしゃ降りの雨	バケツをひっくり返したように降る雨	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる雨
この程度の雨でも長く続く時は注意が必要となる。	側溝や集水桝（グレーチング）。小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要となる。道路が川のようになる。	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。大しぶきで辺りが白っぽく視界が悪くなる。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要となる。

避難情報の種類

市は、気象庁の防災気象情報や市内の被害状況に応じて、市民のみなさまの避難が必要と判断した場合に、避難情報を発令します。
避難情報が発令されたら、当初から開設を予定する避難所から順次開設しますので、安全な場所へ避難しましょう。

警戒レベル	防災気象情報 発表元：気象庁	避難情報 発令元：市	取るべき行動
5	氾濫特別警報・大雨特別警報・土砂災害特別警報	緊急安全確保	命の危険、直ちに安全確保
＜警戒レベル4までに必ず避難！＞			
4	氾濫危険警報・大雨危険警報・土砂災害危険警報	避難指示	危険な場所から全員避難
3	氾濫警報・大雨警報・土砂災害警報	高齢者等避難	避難の準備・避難に時間を要する人は早めに避難
2	氾濫注意報・大雨注意報・土砂災害注意報	—	自らの避難行動を確認
1	早期注意情報	—	災害への心構えを高める

○立ち退き避難（水平避難）
原則として、浸水被害が発生する前に高台や避難所に避難してください。

○屋内安全確保（垂直避難）
浸水する前の水平避難が間に合わず、既に道路が浸水してしまった状況では、避難所への移動はかえって危険な場合があります。
今いる建物のなるべく高い場所に移動し、安全を確保してください。

災害発生時の各避難所の混雑状況については、以下の二次元コードから確認できますのでご参照ください。

VACAN（バカン）

基準水位

避難に関する情報は、河川の水位の上昇を参考にして発令します。
河川の最新の水位は「国土交通省　川の防災情報」で確認できます。
治水橋、清柳橋、浜崎の各観測所の水位はマップ面の二次元コードから確認できます。

河川	水位観測所	水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位
荒　川	治 水 橋	7．00m	7．50m	12．80m	13．30m
柳 瀬 川	清 柳 橋	19．15m	19．65m	20．53m	20．87m
黒 目 川	浜　崎	5．10m	5．80m	—	6．04m

上記基準水位は令和２年のものであり、今後変更されることがあります。

水防団待機水位：水防団が水防活動の準備を始める目安となる水位
氾 濫 注 意 水 位：水防団が出動して河川の警戒にあたる水位
避 難 判 断 水 位：レベル３　高齢者等避難の発令の目安であり、避難に時間がかかる方が避難を開始する水位
氾 濫 危 険 水 位：レベル４　避難指示の発令の目安であり、河川が氾濫するおそれのある水位

洪水と内水氾濫の違い

○洪水・外水氾濫（本マップで扱うもの）
河川の水位が上昇し、堤防からあふれた水が町中に流れ出す水害です。河川の周辺で発生します。

○内水氾濫
道路側溝や雨水・下水管の排水能力を超える激しい雨が降った場合、河川の水位が高く雨水を川に排水できない場合に、雨水が町中に溜まる水害です。河川から離れていても、周囲より標高が低い場所で発生します。

※「新座市内水ハザードマップ」も作成しておりますので、あわせて御確認ください。

急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）の前兆現象

○斜面に亀裂ができる
○斜面にはらみがみられる

○普段湧んでいる湧き水が濁ってきた、水の吹き出しがみられる
○湧き水の急激な増加あるいは減少・枯渇が認められる

○小石が斜面からぱらぱらと落ち出す
○斜面から異常な音、山鳴り、地鳴りが聞こえる

土砂災害について

○土砂災害の種類
土砂災害は、「急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）」、「土石流」、「地すべり」の３つに分けられ、何日か続く長雨や大雨、突然の集中豪雨及び地震によって発生し、全国各地で被害が発生しています。
新座市で発生するおそれがある土砂災害は、急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）のみです。

○土砂災害防止法
土砂災害防止法（土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律）は、土砂災害から国民の命を守るため、土砂災害のおそれがある区域を法律で指定し、危険の周知・警戒避難体制の整備をしていくものです。
また、著しい土砂災害が発生すると予想される区域では、住宅等の新規立地の抑制、既存住宅の移転の促進などのソフト対策を推進しようとするものです。

急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）は、雨や地震等の影響で地盤がゆるみ、突然斜面が崩れ落ちる現象です。急な斜面で発生しやすいため崩壊速度が極めて速く、逃げ遅れる人が多いという特徴があります。

○土砂災害警戒区域（イエローゾーン）
急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると土砂災害防止法で指定された区域です。指定されると、地域防災計画に基づいて土砂災害に関する危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

○土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）
土砂災害警戒区域のうち、著しい危害が生じるおそれがあると土砂災害防止法で指定された区域です。指定されると、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等の措置が講じられます。

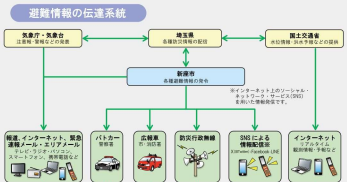
情報の入手先

各機関が発表する情報は、テレビ・ラジオのほか、インターネット上でも入手することができます。
新座市公式ＬＩＮＥのほか、新座市防災サイトに緊急時の情報取得に役立つサイトを掲載していますので、これらのホームページなどから積極的に情報を収集しましょう。

○新座市公式 LINE の友だち追加用

○新座市防災サイト「緊急時の情報取得について」

避難情報の伝達系統



（参考）防災行政無線の放送内容は、フリーダイヤル（０１２０－８６２－３９９）で確認ができます。

2 避難の際の心得

心構えと準備

●避難場所と避難経路の確認を
日頃から、洪水・土砂災害時の避難場所と安全に移動できる避難経路を確認しておきましょう。
浸水の状況の変化に備え、複数の避難経路を考えておきましょう。

●正確な情報収集と自主的避難を
ラジオ・テレビ、インターネットなどで最新の気象情報、災害情報、避難情報を確認しましょう。
雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

●避難の呼びかけに注意を
危険が迫ったときには、市役所や消防署から避難を呼びかけることがあります。呼びかけがあったときは、速やかに避難しましょう。

●避難する前に
あわてず冷静に周囲の状況を確認しましょう。
避難する前には、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉め、火の始末をしましょう。

避難時の心得

●動きやすい服装で２人以上での避難を
避難するときは、動きやすい服装で避難しましょう。
また、単独行動は避け、２人以上での避難を心がけましょう。

●はき物に注意を
裸足、サンダル、長靴は危険です。歩きやすい運動靴で避難しましょう。

●水深や流れの強さに注意を
歩くときは、水深や流れを考慮し、無理をしないようにしましょう。
歩くことができる深さは、男性で約７０センチまで、女性で約５０センチまでです。

●段差や溝に注意を
避難するときは、できるだけ浸水していない道路を選びましょう。
また、浸水している場所では、溝や水路に十分注意しましょう。

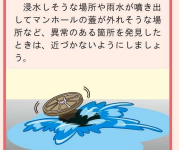
避難時の留意点

●万一逃げ遅れたら
避難が遅れて浸水してしまったときは、予定された避難場所に避難することが必ずしも最善ではない可能性があるため、状況に応じて柔軟に各自で判断し、建物の２階や屋根などの高い場所への垂直避難で安全を確保し、救助を待ちましょう。

●車での避難は控えて
車での避難は、緊急車両の通行の妨げになりますので、特別な場合を除きやめましょう。
また、水防活動の妨げになりますので、自動車を堤防や道路に放置しないようにしましょう。

●危険箇所に注意を
浸水のおそれがある立体交差点（アンダーパス）や土砂災害のおそれがある場所などは、二次災害のおそれがありますので、近づかないようにしましょう。

●異常を発見したら
浸水しそうな場所や雨水が噴き出してマンホールの蓋が外れそうな場所など、異常のある箇所を発見したときは、近づかないようにしましょう。



地下空間の危険性

●地上が冠水すると一気に水が流れ込んできます
換気口など思わぬところから水が入ってくることがあります。
また、水が流れ落ちてくると、階段は登ることができなくなります。

●水圧でドアが開きません
浸水すると、外開きでも内開きでもドアを開けることができなくなります。

注意を要する箇所

●立体交差点（アンダーパス）
道路や鉄道などが立体交差し、道路が低くなっている所は、水がたまるため通行ができなくなります。

●低いところ（窪地）
アンダーパスのほか、周辺の土地より低くなっている道路なども、周辺の土地から水が流れ込み、水がたまるため通行ができなくなります。

3 要配慮者への支援

高齢の方、身体の不自由な方など、情報の把握や避難の行動に時間がかかる方は、早めに避難をする必要があります。これらの方が早めに避難できるよう支援しましょう。
また、避難に際し、近所に援助を必要とする方がいるときは、その避難にも協力しましょう。

●高齢の方・病気の方には
車いすや点急の担架などを使い、２人以上で避難に協力しましょう。
緊急の際は、ロープなどを使い背負って避難しましょう。

●目の不自由な方には
まず、「お手伝いしましょうか。」などと声をかけましょう。
次に、杖を持っていない側にまわり、案内者の腕を軽く持ってもらいます。
階段や障害物などの状況を説明しながら、半歩前をゆっくりと歩きましょう。

●耳の不自由な方には
近くに寄って、相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきりと動かして話しましょう。
また、紙に書く、身振りをするなどして情報を分かりやすく伝えましょう。

●体の不自由な方には
車いすでの避難には、必ず３人以上で協力しましょう。階段を上がるときは車いすが前向きに、下がるときは車いすが後ろ向きになるように避難しましょう。

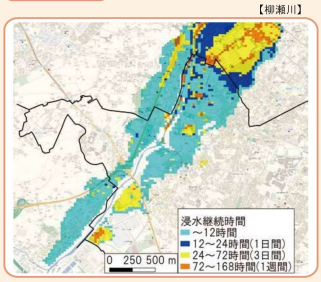
●外国の方には
声をかけ、言葉が通じないときは、身振り手振りを交えて話しかけるなどして、孤立しないようにしましょう。

●妊婦・乳幼児には
妊婦や乳幼児がいるときは、避難の行動が遅れることがあります。
避難する際などは地域の皆さんで協力して助け合いましょう。

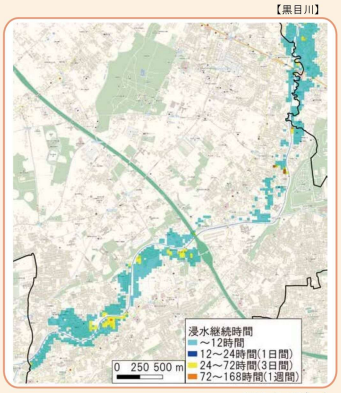
4 予想される浸水の継続時間

浸水継続時間

【柳瀬川】



【黒目川】



この図は、想定最大規模の降雨の際に、破堤や越水等の河川氾濫が生じ、ある地点に氾濫水が到達し、その浸水の深さが 50cm に達してから 50cm 未満となるまでの時間の最大値を示すものです。
時間の最大値については、荒川水系荒川洪水浸水想定区域図のものと、荒川水系新河岸川流域洪水浸水想定区域図・水害リスク情報図のものを比較し、より長い方を反映させています。
浸水継続時間が 72 時間を超える地域では、河川の氾濫により孤立する可能性があります。原則として浸水想定区域外への立退き避難を行ってください。

©NTT インフラネット